

『熱中症フェースゲート活動』

建設業における熱中症対策は、施設面や啓発教育面で熱心に取り組んでいるが、その究極は「作業員の健康状態を本当に把握する」ことである。

しかしながら、チェックシートでは形骸化してしまったり、その記載内容が現実とそぐわなければ意味がなくなる。また、せっかく用意した施設（給水器や製氷機等）もきちんと利用してもらわなくては効果が出ないこともある。

そこで、当作業所では「熱中症フェースゲート活動」を行った。

これは、朝礼終了後、10時、12時、15時の各休憩時間あけに、リーダー会メンバーと職員が休憩所前に立ち、作業場に出る作業員全員の顔色を確認し、調子の悪そうな人に声掛けを行った。その効果として、全作業員に対し、実地で適切な休憩や水分補給を呼びかけ、具合が悪いことを言い出しやすい環境を作り、熱中症を出さなかっただけでなく、所内の輪も広がり、作業間調整や安全衛生活動も順調に進めることができた。



熱中症フェースゲート 体調の悪い人はいませんか？

水分・塩分は補給しましたか？
具合が悪かったら無理せずリーダーに
伝えましょう！



リーダー会

- ・作業員一人一人のその時の本当の顔色が「見える」
- ・具合の悪い作業員が誰に相談すればよいか「見える」
- ・リーダー同士がどのような活動をしているかが「見える」
- ・職員が何を考え、リーダー会が何を欲しているかがお互いに「見える」

⇒相談しやすい環境、コミュニケーションのとれた作業所となった。